

『未来の横綱集合!!』

わんぱく相撲大会

リポーター 小笠原 求さん(独鈷町)

六月十三日、大館樹海ドームにおいて『わんぱく相撲』が行われました。(社)東京青年会議所の



大会の運営にあたった大館青年会議所のみなさん
(前列左から3番目が小笠原リポーター)

呼びかけで始まり、秋田では今年で十三回目となる歴史ある大会。横綱『貴ノ花関』も小学校のとき、東京大会に出場し、優勝しています。元関脇、高見山の東関親方に来賓として来ていただきましたが、なにせ大きい人で取っ付きにくい印象でした。でも、実際はサインに気軽に応じてくれるし、おどけた表情で周りを楽しませてくれる人でした。

大会は、小学校四年生から六年生までの『ちびっこ力士』が全県から集まり、取り組みが行われました。

大きく北鹿、米代、秋田中央、県南の四つのブロックに分かれてーナメントを行い、勝ち上がってきた児童で横綱・大関・関脇を決めます。そのほか、優秀選手・敢闘賞も選ばれ、この中から十五名が七月二十六日、両国国技館で行われる全国大会に出場します。大

館南小学校六年の『小畑良介』君は見事二年連続横綱の快挙を成し遂げました。全国大会でもベストを尽くしてもらいたいと思います。準決勝や決勝戦になるとやはり『相撲』らしくなってきましたが、四年生の部では観客席からは『かわい〜』、『めんけ〜』と言った言葉がしきりに聞かれました。しかし小さい子が体格の大きい子に勝つことも少なからずあり『もの言い』のつく取り組みも何番かあったりして、なかなか侮れません。紅一点の『弥次金夕貴』ちゃんも秋田中央地区のベスト四に見事入賞しました。取り組みの中



中には土俵に転ばされた子が、擦りむいた場所を指さして『痛いよー』と投げた子に『文句?』を付けていたりする場面もあったりして、とても目が離せない取り組みが続きました。とはいっても『相撲は相撲』。土俵上では審判をしている相撲協会の人に礼儀作法について厳しく注意されていました。こういったことも良い勉強になったと思います。

かたに『相撲』について指導してもらったり、また、学校単位で交流することができればもっと有意義だったのではないかと思います。地元として残念なのは、有浦小学校の相撲部が無くなってしまったこと。地元の大会に参加していればかなり盛り上がったことだろうと思います。

中には土俵に転ばされた子が、擦りむいた場所を指さして『痛いよー』と投げた子に『文句?』を付けていたりする場面もあったりして、とても目が離せない取り組みが続きました。とはいっても『相撲は相撲』。土俵上では審判をしている相撲協会の人に礼儀作法について厳しく注意されていました。こういったことも良い勉強になったと思います。

全県のちびっこ力士が一同に集まる良い機会なので、相撲協会の

土俵の上での戦いも力の入った取り組みが続きましたが、その土俵を文字どおり支えている裏の方々の努力も忘れるわけにはいきません。相撲協会のかたはもちろん、取り組みをほとんど見ることもなく受け付けをしていたり、ゴミを分別して片付けていたり、そんな多くのボランティアの方々に支えられてこの大会が行われました。また、後片づけをされていて、観客席にほとんどゴミが無かったことも特筆できる点でした。

大館樹海ドームで行われたわんぱく相撲は、ちびっこ力士はもちろん、観客のみなさん、スタッフ、すべての面において一致協力して成功した、とてもすばらしい大会だったと思います。